

(1) 活動(実践)内容

実施学年：第2学年

単元名：Lesson 6 The 3Rs in Germany and Japan

時間数：3時間 (①動名詞の学習 ②準備中心 ③調査活動)

技能領域：「話す」

実践内容：動名詞を用いてインタビュー活動(調査)を行い、その結果をグループごとに発表する。

活動概要：①4人グループを作り、グループごとにテーマを選択する。

②選択したテーマに合うインタビュー内容(質問事項)を考える。

また、回答は選択制とするため、選択肢を3つ考える。

③グループのメンバーが分かれ、他グループのメンバーにインタビューする。

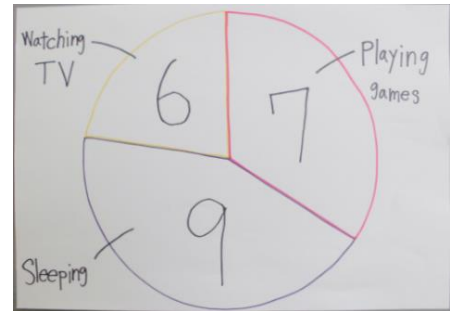
その結果をグループに持ち帰り、総合データとしてまとめる。

④調査結果をグラフにし、発表の役割分担をする。

グラフの種類はグループで相談。画用紙に描いて、グループ発表時に提示する。

必ず1人1つ(1文)は英文で調査報告をするように、役割分担をする。

⑤1グループずつ発表をする。



(2) 成果と課題

本実践では、普段は時数的な問題から数多く行うことができていない「調査結果を報告する」ことに焦点を当てて取り組んだ。動名詞について学習した後、準備中心の時間と調査(インタビュー)や報告をする時間に分けて行った。

<成果>

- ・生徒たちが苦手とする疑問文作りを、グループ内で教え合いながら進めることができた。
- ・ジグソー的な活動が、生徒たちのモチベーションを高めることとなり、グループ活動が活発になった。
- ・新しい基本文を用いるだけでなく、今まで学習してきた内容を含む活動であり、生きた英語、使って覚える英語となった。
- ・デモスト映像が効果的であった。生徒たちにさせたい活動をあらかじめ教師自身が行い、その様子をビデオに撮っておいたため、難しく感じる活動を楽しんだり、活動のイメージを持たせたりすることができた。
- ・発表後の時間にゆとりがあったので、お互いの調査結果を知って感じたことや、活動の振り返りを英語で伝え合った。「何かを伝えよう」という姿勢が普段よりも表に出ていた。

<課題>

- ・疑問文作りに時間がかかった。「言いたいことが英文にならない」ことの一番の課題が(平叙文よりも)疑問文なので、帯活動などを工夫して慣れさせたい。
- ・発表の場が大きくなればなるほど、声が張れずに小さくなってしまいう傾向がある。グラフの見せ方、目線なども含め、プレゼンに慣れさせたい。
- ・「話す」だけの活動で終わってしまっているため、他技能と絡めた展開を考えていきたい。

